

## 久保田秀夫\* サクラの新品種

H. KUBOTA : New forms of some Japanese Cherries

1) **フタカミザクラ** 1970年4月24日、高岡市のサクラの研究者加茂善治氏のご案内で長基健治、船津金松両氏と共に同市の二上山にサクラの観察に行った。キンキマメザクラとヤマザクラが満開でとくにキンキマメザクラはいたるところに多くなかなか美しかった。その時道路から少しはなれた斜面に紅紫色の花をつけたやや丈の高い1株のサクラが眼についた。キンキマメザクラの八重で花径は約2.8cm、花弁は12~15片あり非常に美しいサクラであった。そして一同の声もフタカミザクラと呼ぶのがよいとのことであった。亜高木で高さは約6m、莖は直立し、小花柄はキンキマメザクラより少し長く、無毛、がく筒も無毛、裂片は披針形である。成葉はだ円形で先は鋭尖頭にして基準種の倒卵形で急に鋭尖頭、欠刻状重鋸歯縁をなすのと異り、やや細かい重鋸歯縁、表面は無毛、裏面は中肋側脈に微毛があり、葉柄はやや密毛がある。キンキマメザクラの八重咲品はヤエノキンキマメザクラ (*P. incisa* var. *kinkiensis* form. *plena* SATOMI)としてすでに石川県から知られている。二上山のものは完全な八重咲であり、紅紫色でなかなか美しく庭木としても観賞価値があると思われるので品種名をあたえることにし、和名は息生地にちなんでフタカミザクラとし、学名は二上山にサクラを植えたり、同山の自然保護のために努力されている前記の加茂氏に献名することにした。

2) **オモイガワザクラ** ジュウガツザクラの実生から生じたもので、1954年5月29日に播種、1955年4月15日発芽、1959年4月22日に開花した中の1株である。樹形はエドヒガンに似て莖は直立し、枝は横に拡がり、先はやや細い。ジュウガツザクラは春と秋に開花するがこれは春のみである。花は紅色、ジュウガツザクラより大きく、花弁は普通は10片、小花柄は長く下垂する。花柱には下半部に開出する毛がある。葉はジュウガツザクラより大きく、エドヒガンとの中間で側脈は9~11対、鋸歯はエドヒガンに似てやや細かく、蜜腺は葉脚にあるがジュウガツザクラより大きくエドヒガンに似ている。花は葉に先んじて咲き1花序に3~4花で小枝の先に多数つき非常に美事である。これは木の成育もよく園芸品種としての価値があると思われるのでジュウガツザクラの品種とし、採種した株が植栽されている小山修道院(栃木県小山市)のある丘の下を流れる思川に因んで命名することにした。

この接木苗を日本花の会の小山農場では目下多数育成中である。私のために修道院の種子を採取して送って下さった桜井健神父にあつくおん礼申しあげる。

3) **ミドリコヒガン** コヒガンザクラの花は白色、がくは緑色、若葉も緑色になったもので非常に清楚な感じをあたえる。新潟県柏崎市黒姫女谷のある家に5本のコヒガンザクラが植えてあり、その中の3本が白色花で他の2本は淡紅色花であった。1960年6月に当時こ

\* 東京大学理学部付属植物園日光分園 Nikko Branch Garden of Botanical Gardens, Faculty of Science, University of Tokyo.

の地の鶴川中学校におられた小川清隆氏のご案内でこのサクラを観察し、更にその翌年4月に花を送っていただき白色花を確認することが出来た。当時の測定で直径は9～11cm、高さは約6mで、所有者の話によると樹令は約70年とのことであった。1961年の春小川氏の好意で樹木を送っていただき接いだのが1963年に開花した。これも花の色に因んで和名をあたえ、学名は始めにこのサクラに注意された小川氏に献名することにした。

なお宇都宮大学農学部森谷憲博士のお話によると同氏は1967年4月柏崎市の与太の八幡宮の境内にミドリコヒガンが植栽されているのを見たとのことである。コヒガンザクラは長野県の北部から新潟県にかけてあちこちの庭先に植栽されているのを見かけるがこちらに自生がないのは一寸不思議である。

1) *Prunus incisa* THUNB. var. *kinkiensis* OHWI form *kamoana* KUBOTA, form. nov.

Arborea. Flores subcoetanei vulgo 2 umbellati valde rosei. Pedunculi 5mm longi. Pedicelli 25-28mm longi glabri rubro-viridiscentes. Calycis tubus tubuloso-campanulatus 9-10mm longus ruber glaber. Calycis lobi lanceolati margine fere integri parce ciliati 4mm longi. Petala 12-15 late obovata 13-10mm longa 9-7mm lata. Stylus 10.5mm glaber. Folia adulta elliptica raro obovata 70-25mm longa 34-14mm lata apice acuminata basi biglanduliferus obtusa vel late cuneata, margine subduplicato-serrulata subtus secus costam pilosa; petiolis 12-8mm longis pilosis.

**Nom. Jap.** Hutakami-zakura

**Hab.** Honshû: Hutakami-yama, Takaoka-shi, Prov. Ecchû. (H. KUBOTA, April 24, 1970-type in Herb. Nikko Bot. Gard., Univ. Tokyo.)

2) *Prunus subhirtella* MIQ. form. *omoigawa* KUBOTA, form. nov.

Flores praecosi vulgo 3-4 umbellati semipleni rosei ca. 30mm in diametro. Pedicelli penduli 30-32mm longi pilosi. Calycis tubus ovato-campanulatus basi inflatus 5mm longus. Petala late obovata vel obovato-elliptica 14-11mm longa 11-7mm lata apice emarginata margine paulo minute denticulata. Stylus infra medium pilosus. Folia adulta obovata vel late obovata vel orbiculato-elliptica 22-68mm longa 13-36mm lata apice caudato-acuminata utrinque 9-11 venosa infra secus costam et venas pilosa margine duplicato-serrulata basi laminae 1-2 glanduliferus.

**Nom. Jap.** Omoigawa-zakura

**Hab.** Honshû: Nikko, Prov. Shimotsuke cult. (H. KUBOTA, May. 1, 1962-type in Herb. Nikko Bot. Gard., Univ. Tokyo)

3) *Prunus subhirtella* MIQ. form. *ogawana* KUBOTA, form. nov.

Folia juvenilia, pedicelli, calyx toto viridia. Petala nivea.

**Nom. Jap.** Midori-kohigan

**Hab.** Honshû: Kurohime, Kashiwazaki-shi, Prov. Echigo. cult. (H. KUBOTA, April 21, 1961-type in Herb. Nikko Bot. Gard., Univ. Tokyo)